

福島県PTA連合会会報
第107号_H30. 12. 14

福島県PTA連合会



PTA ふくしま 第 107 号

県連P活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA 活動を

編集：調査広報委員会 印刷：泉印刷所

特集

第66回福島県PTA研究大会喜多方大会報告

たくましく生きる 次代を担う子どもたちの喜び多い方(未来)を創ろう
～今の時代だからこそ人と人との絆を信じて～



●実行委員長あいさつ

喜多方大会を終えて



実行委員長

小林 裕子

第六十六回福島県PTA研究大会喜多方大会は、平成三十年十月十四日に喜多方プラザをメイン会場として開催致しました。

「たくましく生きる 次代を担う子どもたちの喜び多い方(未来)」を創ろう。今の時代だからこそ人と人との絆を信じて。の大会主題のもと、県内より約千四百名のPTA会員の皆様にお集まりいただき、五つのテーマに沿った七分科会を実施いたしました。

各分科会では、実践発表を中心にグループ討議や意見交換が活発に行われました。今回は全国トップレベルの学力の秋田県大仙市より二名の発表者をお迎えし「大山教育メソッド」の事例をわかりやすくお話いただきました。

午後の記念講演会は、ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会共同代表の大谷良光先生をお迎えし、スマホやラインの利用時間と成績の関係や、「便利」は子どもの発達を阻害し体を使つて学ぶ機会を奪う大きな要因である、というお話をいただき、大変勉強になりました。ぜひ子どもたちにも聞かせ

てあげたい内容でした。

スマホ一つで何でもできてしまう今、デジタルネイティブの子どものたちは、人と人との関わりや「絆」という言葉をどう受け止めているのでしょうか。「便利」だけに流されない判断力を養うために何が子どもたちに必要か、親・大人も考えなくてはならない、と改めて思いました。

今大会開催に際しまして、ご来賓の皆様や多くの関係者の方々よりたくさんのご支援、ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。皆様よりいただいた温かいお気持ちを子どもたちに繋げるべく、親同士の絆をさらに深めていきたいと思っております。

次年度開催の南相馬大会実行委員会の皆さんの絆も固く結ばれますよう喜多方より応援しております。頑張ってください！

もくじ

第66回福島県 PTA 研究大会喜多方大会報告

実行委員長あいさつ	P 1
第 1 ～ 2 分科会	P 2
第 3 ～ 5 分科会	P 3
東北大会秋田大会レポート	P 4
母親代表懇談会より	P 5
事務局からのお知らせ	P 6

第六十六回福島県PTA研究大会 喜多方大会に参加して

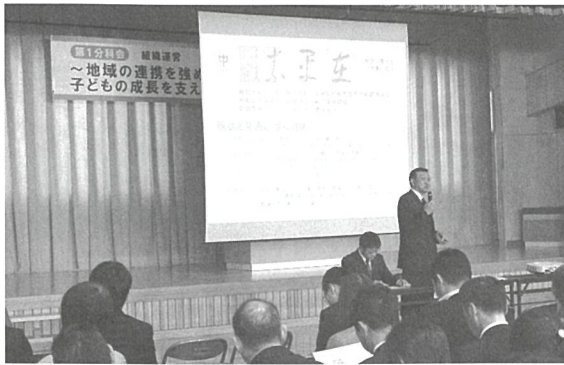
第1分科会

組織運営

喜多方市立第三小学校

PTA会長

東條 一史



第一分科会は「地域の連携を強め、子どもの成長を支えるPTA活動のあり方とは」をテーマに「地域の子どもの成長を総合的に支えるPTA組織」「中学校区を単位とした地域連携PTA活動のあり方」の二つの研究協議の視点のもと開催されました。提言者として、福島県会津坂下町立坂下中学校校長板橋健一様、

秋田県大仙市立平和中学校校長千田寿彦様、同PTA会長 傳野和樹様を迎え、コーディネーターとして福島県教育庁義務教育課学力向上訪問支援主任指導主事小松信哉様の進行のもと協議いたしました。

始めに、板橋様より坂下町の取り組み「一つの学園構想とPTA活動」について、保育所、幼稚園、小学校、中学校が一貫教育のよう

に学びをつなぐ様子を詳しく紹介頂きました。次に、千田様、傳野様より大仙市の取り組み「大仙教育メソッド」をもとに家庭学習の習慣づけと地域との連携の様子を様々ご紹介頂きました。

最後に、本分科会を通して子どもにより良い成長のためには、家庭と学校と地域との連携を深めていくことが大切であると改めて強く感じました。



第2分科会

研修活動①

喜多方市立姥堂小学校

PTA会長

手代木 洋一

本分科会では、まず元喜多方子メディア活用向上推進委員会委員長の小島雄一氏を講演者に迎え、「メディアとのつきあい方」を考えよう！子どもが危ない」と題してご講演をいただきました。内容は「子ども達には自然の中や人とのふれあいの中で活動することの楽しさを伝えたい。言語能力を形成する小学生の間に、メディア漬けは大問題。実体験を伴うような環境を作るのが親と教育関係者の責務なのではないか」というも

第2分科会

研修活動②

喜多方市立山都小学校

PTA会長

齋藤 純

本分科会は「SNSをはじめとした情報化社会のなかでの親子のあり方・保護者及び教師の子どもの関わり方はどうあるべきか」というテーマのもと、約三百二十名の参加をいただき開催することができました。

講演会はeネットキャラバン 諏江正義氏を講師に迎え、ネットトラブルを防ぐ、具体的な方法について教えていただきました。フィルタリングを行う法的な根拠についても知ることができ、保護者の果た

のでした。次に学校週五日制導入当初から「土曜教室」を実施してきた堂島小学校より実践発表がありました。これは、子ども達にテレビやゲーム等メディアから少しでも離れさせ、スポーツ・絵画・茶道・料理・将棋等様々な体験をさせたいというPTAの方々の強い思いから始まった行事でした。堂島小学校の同窓会組織の協力と、地区公民館や地域の方々にも講師という形で携わっていただいております。現在でも年間四回ほど実施しているそうです。アンケートの結果、ほとんどの児童や保護者からは概ね良好な反応を得ているとのこと。学校・保護者・地域が一体となったこの取組は他の学校でも参考になるものだと思います。

すべき役割について学ぶことができました。保護者が正しい知識を持つこと、学校が適切な情報の提供や学習の機会を設定していくことが大切であることが分かりました。

次に、山都小学校PTA会長と山都中学校PTA会長が実践発表を行いました。私たちの住む山都地区から、全世界と容易につながることができるSNSの便利さと怖さについて理解し、適切な利用を促進する取り組みについて発表させていただきました。

今後も保護者を始め大人が児童生徒の実態を知り、できることを継続すること、連携して行動して行くことを忘れずに、未来ある子どもの健やかな育ちを見守っていききたいと思います。

第3分科会 家庭教育（小）

北塩原村立さくら小学校
PTA会長
岩田 多吉

第三分科会は「子どもたちの『生きる力』を育む家庭・地域の関わり方や支援」のテーマのもと、提言者の発表、ディスカッション（グループ発表を含む）が行われました。

「町全体で子ども達を育てていくことの重要性」について喜多方市立熊倉小学校から、「地域全体で子ども達を育てていく体制づくり」について北塩原村から、それぞれ実践発表をいただきました。その後、会員の皆様との意見交換を経て、子ども達が確かな『生きる力』を育み自己

第3分科会 家庭教育（中）

喜多方市立高郷中学校
PTA会長
大竹 勉

「『自分で学習や生活を改善する力（自己マネジメント力）』を育む家庭・地域の関わり方や支援」を分科会のテーマに、二つの研究協議の視点について実践発表およびグループ討議を行いました。

研究協議の内容としては、視点1「子どもたちを取り巻く環境の変化をとらえ、健康や安全を守り、地域・学校ができること」について、喜多方市立高郷中学校教頭 星英典より、視点2「学校と連携した家庭での学習等につい

肯定感を高めていくためには、家庭・学校・地域・行政がそれぞれの特性を生かしつつ、対等な立場で、子ども達に、多様な体験を積みせたり考え方・感性を養ったりしながら、故郷を愛する喜びにつなげていく事が重要であることを全体で確認しました。

今回のテーマの最大のポイントは地域の子どもの達を地域で育んでいくために地域の教育力（子供と育つ地域づくり）をどう向上させていくか、即ち、日常から、学校と地域が協働して課題解決をしていく体制の構築（強い絆づくり）でありました。

最後に、お忙しい中、第三分科会にご参加いただいた皆様に感謝と御礼を申し上げ報告いたします。

ての現状を認識し、家庭でできること」については、喜多方市立高郷中学校PTA会長 大竹勉より実践発表し、グループ討議を行いました。

グループ討議は、五〜六名の小グループ編成で、それぞれの地区の現状など、活発な話し合いが行われました。

討議後には、コーディネーターの福島県教育庁会津教育事務所総務社会教育課社会教育主事の室井 美穂様より「今後は学校・家庭・地域のみならず行政とも連携した取り組みが必要」といった指導助言を頂き分科会を閉会しました。

最後に、ご参加頂いた皆様に感謝申し上げ、分科会の報告と致します。

第4分科会 健全育成

西会津町立西会津小学校
PTA会長
渡部 紀夫

第四分科会は、「児童生徒の豊かな心を育むための家庭・学校・地域」をテーマに、「いじめ・不登校防止に向けて子どもたちのためにできる家庭・学校・地域」「地域の力を活かした人づくり地域づくりについて」と題した実践発表と指導助言を受け、県内各支部から集まったPTA会員二百五十名で共に考えました。

西会津町地域学校協働活動事業（学校と地域が連携協働して、地域全体で未来を担う子ども達の成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」）を推進している、西会津中学校教諭 江川新治先生と

第5分科会 特別支援教育

喜多方市立駒形小学校
PTA会長
鈴木 一勢神

第五分科会は、「特別な支援教育を必要としている子どもたちへの理解とPTA活動」をテーマにインクルーシブ教育の理解と支援を必要とする子どもたちを支えるPTA活動のあり方について、共に考えました。コーディネーター、パネラー六名を中心に、話し合いが行われました。

パネラーよりインクルーシブ教育システムについて、障がいのある人もない人も互いに助け合いながら生活する共生社会の形成を目指して、幼小中高という学校段階でも、障がいのある子

西会津町家庭教育指導員 紫藤眞理子先生・星佳子先生から実践発表がされ、「なぜ、地域と共にある学校づくりが必要なのか」「地域活動・ボランティア活動を通じた成果」「家庭教育支援活動」等を短い時間でありましたが発表されました。

その後、会員の皆様との意見交換の時間を設け、学校と地域が連携する必要性を考える良い機会になり、最後には県教育庁社会教育課社会教育主事 戸倉深希子先生から指導助言をいただきました。

小学校内に開設している「心のオアシス」には、児童生徒・保護者だけでなく先生方も訪問することで、様々なサポート体制が構築されていると感じられました。

最後になりますが、今後もPTAが地域と学校と家庭の架け橋となる活動が必要であると強く感じました。

どももない子どもでも可能な限り共に教育を受けられる仕組みについての説明があり、具体的な取組について意見が交換されました。

塩川小学校では、特別支援学級の子どもも共に学ぶ共同学習が行われ子ども達が互いに対して差別や偏見を持たないように配慮している実践例について発表がありました。

パネラーより、障がいのある子どもに対する同年代の理解が大切であり国連で定められている子どもの権利条約の理念を大切に、との話があり、改めて、分け隔て無く学べる社会環境の大切さに共感した分科会となりました。

コーディネーターの「特別な支援を必要とする子どもの理解」が必要であるという言葉が心に残りました。



晴れの表彰おめでとうございます

1 文部科学大臣表彰「優良PTA」表彰

会津若松市立行仁小学校父母と教師の会
下郷町立旭田小学校父母と教師の会
「PTA活動振興功労者」表彰
前福島県PTA連合会会長 小林 利明

2 日本PTA全国協議会 会長表彰

◇団体

福島市立清水小学校父母と教師の会
いわき市立高野小学校・内郷第三中学校PTA

◇個人

安藤 敦 (H28～29副会長)
橘 文紀 (H29副会長)
武山 剛 (H29副会長)

◇特別表彰

大橋 誠寿 (H26～29総務部長)
川島 敬章 (H26～29教師代表理事)
大樂 治美 (H24～26母親代表理事)
大泉 きよみ (H28～母親代表理事)
矢吹 清光 (H28～29教師代表理事)
長澤 芳明 (H28～29会計部長)
須田 尊 (H26～27会計部長)
佐藤 秀雄 (H25調査広報部長26事務局長理事27～事務局長)
石川 逸子 (H26～28調査広報部長)
菊地 真弓 (H27～29母親代表理事)
横田 純子 (H26～27母親代表理事)
金内 貴弘 (H27～28理事・監事)
江口 隆弘 (H26～27庶務部長28教師代表理事)
佐藤 喜彦 (H28～29庶務部長)
羽田 陽子 (S54～事務局員)

3 東北PTA連絡協議会 会長表彰

◇感謝状受賞

小林 利明 前福島県PTA連合会会長

◇表彰団体

福島市立飯野中学校父母と教師の会
二本松市立塩沢小学校父母と教師の会
田村市立西向小学校PTA
大玉村立大山小学校PTA(父母と教師の会)

◇表彰個人

齋藤 吉成 (H28副会長、校長会代表)
福地 憲司 (H27～28副会長、校長会代表)
菊地 真弓 (H27～29母親代表理事)
川島 敬章 (H26～29教師代表理事)
大竹 妙子 (H28～29母親代表理事)
矢吹 清光 (H28～29教師代表理事)
佐藤 喜彦 (H28～29庶務部長)
長澤 芳明 (H28～29会計部長)

4 第40回 全国小・中学校広報紙コンクール

「日本教育新聞社社長賞」
福島市立飯野中学校父母と教師の会

5 平成30年度

福島県PTA連合会会長表彰受賞団体

福島市清水小学校父母と教師の会
他25団体

6 平成30年度

福島県PTA連合会会長表彰受賞者

梅津 司 (福島市立吾妻中学校PTA前会長)
他100名

東北大会レポート

東北研究大会秋田大会 9/15(土)・16(日)

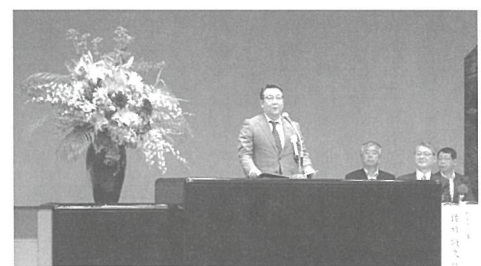
県PTA連合会副会長 成澤 勝 蔵

「第五十回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会」が九月十五日(土)、十六日(日)に秋田市にて開催されました。東北各地から約千八百人のPTA会員が参加し大会主題「つながろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう未来を拓く子どもたちのために」のもと、子どもたちを取り巻く環境の変化、物が豊かになり便利になる一方で、新たな課題が生まれPTAの役割に対する期待、子どもたちの健やかな成長を図り、自律心を育むために私たちは何を提え、何を学び、どう行動すればよいのかを研究・討議し、会員同士の親睦、絆を深めることを目指しました。

初日は、市内六か所で分科会が行われ、私が参加した第一分科会「組織・運営」では「学校再編に伴うPTAのこれから」の研究内容について、児童・生徒の少子化や学校の統廃合により環境が変化していく中、PTA組織の運営、役員の選出等多くの問題があり、小学校と中学校の垣根を越えて一つのPTAとして発足した例やPTA会員の方に「充実感」や「達成感」を得ることが出来れば活動に積極的に参加して頂けること、子どもも保護者も少ないけれど地域でサポートして頂ける方は多いことなどを学びました。

二日目の全体会では感謝状・表彰状贈呈があり、福島県PTA連合会小林利明前会長が受賞者を代表して御礼の言葉を述べられました。その後の記念講演では、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏、女優の菊地桃子氏による演題「未来を拓く子どもたちのために」の対談があり、橋本五郎氏によるとは、先生の数を増やす事、給料を上げる事、そして保護者が先生を尊敬する事、だそうです。保護者が先生の不満、愚痴を言えばそれを聞いた子どもも先生の言う事を聞かなくなり成績が良くなるのは当たり前前

のことだと思えます。今回、研究大会に参加して、いろいろな方の話を聞くことにより多くの学び、気づきがあり、支えられている事を改めて感じました。



表彰式「受賞者代表挨拶」



秋田大会全体会

ちょっと立ち止まって 今を 考えてみませんか？



第24回母親代表懇談会レポート

県 PTA 連合会 母親代表 大 泉 きよみ

平成30年9月21日(金)、郡山市にある福島県農業総合センターを会場に母親代表者懇談会が開催されました。講師に福島県青少年県民会議総合相談センター専門相談員 山崎壽克様をお迎えし、特別支援教育への理解と対応について講演をいただきました。グループ懇談では、日本 PTA 発行の「今すぐ！家庭でできるいじめ対策ハンドブック」を活用し、活発な話し合いが、行われ参加者からは参加して良かった！と大変好評をいただきました。

講話 より

「通常学級に在籍する配慮を要する児童・生徒への支援」

講師 福島県青少年県民会議総合相談センター専門相談員
山崎 壽克 様



山崎先生による講話

発達障害について詳しく説明していただき、違いや特性を正しく理解することの大切さと、不登校について年々増え続けている現状と発達障害の子どもの割合が高いことから PTA 活動の中で障害のある子どもと保護者にどう接し、どう支えられるか課題と対応策について講演していただきました。

《最も大事なことは PTA 会員の一人としての居場所があること》

参加者の声

～講話の感想～

- * 自校にも発達障害や不登校の子どもがいるため大変参考になった。障害の有無にかかわらず個性を育てていかなければいけないと改めて感じた。
- * 自分の子が ADHD と診断されている。どうしてできないの？と周りの子と比べてしまっている部分があったので、周りと比較せず我が子と向き合っていきたいと思う。
- * 言葉でしかわからなかった自閉症やアスペルガーのことなど実際の例などで理解することができて良かった。
- * 支援学級の子どもたちの気持ちや親御さんの考えを聞くことができ、今後の PTA 活動に活かしていければと思った。
- ◇ 親同士の壁をつくらず、もっと話しかける努力をしようと思った。
- ◇ 発達障害を持った子どもの保護者の声で「もっと声をかけて欲しい。孤独なんです。」と言われ、これからは自分から声をかけていきたいと思う。



各グループの発表

～バスセッションの様子～

「いじめ対策勉強会」はハンドブックを参考に経験談を交えての話し合いで大変盛り上がっていました。

各グループの内容

- * あいさつや声掛けをすることで幅広く見守る。
- * 母親どうしの横のつながりが大切。
- * 子どもが悪口を言っていたら、良いところを示して言い換える。
- ◇ ふわふわ言葉「ありがとう」を毎日使う。



バスセッションの様子



安全互助会から

◎平成三十一年度加入のご案内

本年度は児童の賠償責任補償制度の上限を一億円としたIVコースには全体の九割の小中学校からご加入をいただきました。

本県でも中学生が自転車で高齢者の方を負傷させるという事案、学校内での休み時間に起きた百万円を超える人身の賠償事故など多発しております。万が一の場合に備えて安心して活動できるように是非IVコースへの加入をご検討ください。

なお、平成三十一年度の加入ご案内文書は平成三十一年一月中旬に各教育委員会を通してお送りいたします。(いわき市は担当事務局へ)

平成三十一年度県P安全互助会補償制度は、平成三十一年四月一

日より一年間の補償となるため、

三月十一日(月)までに加入申込書を本会宛提出していただくことになりましたので、お早めに手続きくださいますようお願い申し上げます。

◎保険金請求は面倒がらずに

傷害事故については、児童は学校管理下外の日常生活においてのケガ、PTA会員はPTA行事中のケガが補償対象となっております。事故が起きたら、まずは傷害事故報告書、賠償事故報告書を本会宛に郵送ください。

事故報告書を提出されても、保険金請求を取り下げられる保護者の方がおられます。ぜひ、面倒がらずにご請求くださるようご案内ください。

年末年始の事故防止を

「ハイビーム

上手に使う 事故防止」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されます。

●期間

平成三十年十二月十日から平成三十一年一月七日まで

●運動の重点

- (一) 高齢者の交通事故防止
- (二) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)
- (三) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (四) 飲酒運転の根絶

編集後記

十二月になり平成三十年も年の瀬を迎えようとしています。常日頃より会員の皆さまには、本会に対し温かいご支援・ご協力をいただいておりますこと改めて感謝申し上げます。

また、第六十六回福島県PTA研究大会喜多方大会では、多くの方々に参加をいただき、分科会における熱心な討議等、テーマに沿った研修を深めることができました。基調講演も子どもたちを取り巻くネット社会に焦点を当てた講話で、親として大変参考になるお話だったものと思います。皆さまにとっても喜多方大会は、有意義な大会となったのではないのでしょうか。

県内各地より会員が集い、討議を行い、情報を得、研修を深めていく、そんな県大会に、今後も積極的な参加をお願いいたします。

最後になりましたが、「おもてなしの心」をもって大会運営にあたって頂いた実行委員のご尽力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。